

新潟市會津八一記念館指定管理者 平成23年度事業報告

I. 事業の実施に関する業務

基本方針＝會津八一の学芸の世界を多角的に取り上げて普及を図る。

(1) 展覧会事業

概要＝特別展「會津八一 vs 北大路魯山人～傲岸不遜の芸術家～」は入館者が3,961人（前年度特別展比56%増）となった。これまで高村光太郎、濱谷浩と続いた同時代の文化人とコラボレーション企画が成果を上げたと言え、24年度の入江泰吉展へと進行中である。

春の企画展「中国 古俑の世界 ～八一憧憬・高島コレクション～」では、寄贈された収集コレクションを並べ、東洋美術史学者として八一を紹介した。夏の企画展は、日米開戦70周年を意識して「戦争と八一」展と銘打ち、軍国主義に揺さぶられながらも、戦場に赴く教え子に最後の奈良研修をした教育者八一の姿を紹介した。入館者は987人。冬の新収蔵品展兼第5回写真コンテスト入賞入選作品展は、入館者数949人と過去4年間微増傾向である。

(特別展)

會津八一生誕130年・没後55年記念 「會津八一 vs 北大路魯山人」～傲岸不遜の芸術家～
(平成23年9月16日～11月30日 開催日数65日間)

八一と同時代に活躍し、漫画「美味しんぼ」でも紹介され、書家、陶芸家、美食家として知られた北大路魯山人との二人展を開催した。

八一と魯山人とは交流がなかったものの、共通して追求した芸術は「書」であった。お互いに対抗心をむき出しながらも、独特の書の傑作を生み出した。

展覧会では、八一と魯山人の“対決”をコンセプトに、何必館・京都現代美術館所蔵の八一と魯山人の書画及び陶磁器作品の名品を中心に展示した。さらには、魯山人が制作し星岡茶寮で使用した器も陳列した。新潟県内をはじめ、遠方からも多くの来場者があり、大幅な入館者増となった。「八一と魯山人との作品が比較されて分りやすかった」など展示内容も好評だった。

会期中、魯山人に仕えていた辻義一氏（懐石辻留主人）、神林恒道館長による講演会を開催した。また、陳列中の魯山人自画像の解説案を食事券懸賞付きで募集し、25通の応募があった。特別展に親しんでもらうため始めた企画だが、応募者が真剣に考えていただき、魯山人を身近に考えるきっかけになったように思う。魯山人と食との絡みから、古町市内6店舗の飲食店に声をかけて、当館の入館券半券提示による割引サービスを実施した。

これまで高村光太郎、濱谷浩と続いた同時代の文化人とコラボレーション企画が成果を上げたと言え、24年度の入江泰吉展へと進行中である。

入館者数3,961人（前年度「會津八一 人生の書」2,216人（前年度特別展比56%増））

(企画展)

①中国 古俑の世界 ～八一憧憬・高島コレクション～

(平成23年4月15日～6月22日 開催日数58日間)

当館評議員で八一の学統を継ぐ高島義彦氏（八一の高弟・安藤更生門下）から寄贈を受けた明器と瓦当50点を中心に展示した。これらの貴重な作品群は、八一が苦心して収集した美術資料と多くの共通点があった。また当館が収蔵する八一の揮毫による漢詩書等も陳列した。八一の漢字作品は中国の古典から引かれたものが多く、高島コレクションとあわせて、八一が憧れた中国文明を紹介した。通常は書画作品の多い当館の展示だが、今回は立体物が多く、俑の展示が好評だった。東日本大震災がなお生々しい時期で、避難してきた来館者には記念館グッズなどをサービスし、励ました。

入館者数1,663人（前年度「生涯と業績をたどる」2,439人）

②戦争と八一

（平成23年7月3日～9月4日 開催日数54日間）

日米開戦70年の節目の年にあたり、八一が生きた「戦争」の時代とその芸術を再検証する企画展。平成22年に放映されたNHK教育「日曜美術館」で、八一と学徒出陣で次々と戦場へ送られていく教え子たちとの交流が紹介されたことから、このテーマを絞って作品資料を紹介した。特に、戦中戦後の歌集「山光集」、「寒燈集」の歌書などを展示。教え子長嶋健氏に送った日の丸に揮毫した書作品を展示したところ、同様の作品を所蔵する方から連絡があり、急きょ追加展示するなど、新資料の発見もあった。未曾有の大震災の後で重いテーマが敬遠されたのか、入館者数は伸び悩んだが、戦後半世紀以上過ぎ、体験者の高齢化、人々の意識が薄まっている中で、戦争というテーマをストレートに受け入れてもらうことの難しさを感じる展覧会だった。

入館者数987人（前年度「私が選んだ會津八一の書」1,474人）

③新収蔵品展

（平成23年12月20日～平成24年3月25日 開催日数76日間）

平成23年度に新たに収蔵された作品資料を中心に、記念館収蔵の名品を展示。展示内では「歌と書の中の《春》」、「《画》のある作品」と「新収蔵品」という三つのテーマで紹介した。これは八一が詠んだ「あたらしき まちのちまたの のきのはに かがよふはるを いつとかまたむ」が、国際交流基金の年賀状に使用されたこと、中田瑞穂との合作「心友合作」が新潟大学医歯学総合病院のカレンダーになったことに因んでテーマ設定した。

「新収蔵品」では、額作品「黒光菴」などを初紹介することができた。また、第5回写真コンテスト入選入賞作品展の入賞作品は、例年と同じようにガラスケース内に展示したが、写真が見辛いという批判を多くいただき、展示場所を急きょ変更した。例年以上の大雪が影響したか、昨年度とほぼ横ばい。

入館者数949人（前年度「題字の美 ～併設 第4回写真コンテスト入賞入選作品～」935人）

（2）イベント事業

（講演会事業）

①八一祭記念講演会

テーマ「八一・良寛・沢庵」

講師 泉田宗健師（大徳寺派 松源院住職）

日時 8月1日（月） 午後2時～3時30分

会場 りゅーとぴあ 能楽堂（新潟市民芸術文化会館内）

入場者 275人

②特別展関連第1回文芸講演会

テーマ「総合芸術家としての北大路魯山人」

講師 神林恒道 會津八一記念館館長

日時 9月23日(金祝) 午後2時～3時30分

会場 新潟市美術館講堂

入場者 122人

③特別展関連第2回文芸講演会

テーマ「北大路魯山人にお仕えして」

講師 辻 義一氏(「懐石辻留」主人)

日時 10月15日(土) 午後2時～3時30分

会場 りゅーとぴあ 能楽堂(新潟市民芸術文化会館内)

入場者 285人

④第1回文芸講演会

テーマ 中国古代のやきものの造形

講師 出川哲朗氏(大阪市立東洋陶磁美術館館長)

日時 5月14日(土)

会場 クロスパルにいがた 映像ホール

入場者 121人

⑤第2回文芸講演会

テーマ 戦争と會津八一

講師 喜多上氏(文芸評論家)

日時 7月24日(日)

会場 クロスパルにいがた 映像ホール

入場者 110人

(普及活動事業)

①館長講座 講師：神林恒道館長

会場：クロスパルにいがた 映像ホール

- ・第1回 5月28日(土)「炎の人」とバン・ゴッホ 90人
- ・第2回 6月25日(土) ロートレックと「ムーランルージュ」 104人
- ・第3回 7月23日(土)「モンパルナスの灯」とモジリアニ 87人
- ・第4回 9月24日(土)「フェルメールと「真珠の首飾りの少女」の真実 88人
- ・第5回 10月14日(金)「カラバッジオ」その天才の光と影 69人
- ・第6回 11月26日(土)「ミケランジェロの「華麗なる激情」 87人

②出前講座＝その他の団体主催による講演

- ・5月21日(土) 講演「會津八一と越後の文人」

主催：全国良寛会 会場オークラホテル新潟 講師：神林館長 650人

- ・6月29日(水) 講演「會津八一と奈良」

主催、会場：新潟高校2年生全員 講師：喜嶋学芸員 390人

- ・ 9月28日（水）講演「會津八一の魅力 胎内市ゆかりの文人」
主催：胎内市産業文化会館 講師：湯浅学芸員 60人
- ・ 11月8日（火）同行解説「八一足跡巡りバスツアー」
主催：秋艸会 講師：喜嶋学芸員 39人
- ・ 11月19日（土）講演「良寛と會津八一」
主催：新発田市良寛会 講師：神林館長 70人
- ・ 12月21日（水）講演「會津八一 v s 北大路魯山人～傲岸不遜の芸術家～」
主催：亀田福寿大学 会場：亀田公民館 講師：喜嶋学芸員 53人
- ・ 2月2日（木）講演「新潟の文化」
主催：日産グループ春光会 会場：日航ホテル 講師：神林館長 50人
- ・ 2月4日（土）同行解説「ぶらり街あるき新潟文学講座」
講師：湯浅学芸員 38人
- ・ 2月16日（木）講演「美術教育の在り方」
主催：青陵大学教職会 会場：青陵大学 講師：神林館長 55人

③所蔵品貸出展覧会

- ・「尾竹三兄弟・安宅安五郎と学芸諸家」
10月7日（金）～11月6日（日） 所蔵品3点貸出 新潟市潟東歴史民俗資料館
- ・「會津八一通り」誕生記念事業 歌碑拓本展
10月7日（金）～9日（日） 所蔵品4点貸出 胎内市産業文化会館
- ・第36回全国高等学校書道教育研究会新潟大会
11月17日（金） 写真パネル、複製品など貸出 全日本高等学校書道教育研究会
- ・「會津八一の歌碑をめぐる」展
11月2日（水）～1月31日（木） 所蔵品2点貸出 新潟市中央図書館
- ・第4回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展
新潟展：5月28日（土）～6月26日（日） ビュー福島潟
10月7日（金）～9日（日） 胎内市産業文化会館
- 奈良展：10月11日（火）～16日（日） 奈良県立図書情報館

（3）その他の事業

（学習講座）

- ・會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏（文芸評論家）
砂丘館 毎月第1土曜日 受講者15人

（イベント）

- ①「會津八一の歌を映す」第5回秋艸道人賞写真コンテスト
 - ・公募期間 4月から11月12日（作品搬入11月5日～12日）
 - ・応募点数 115点
 - ・応募人数 69人（県内35人 県外34人）
 - ・審査委員 浅井慎平（委員長）、大橋一章、若松保広、和泉久子、神林恒道の5氏
 - ・審査会 11月24日 午後2時～午後5時 ホテルオークラ

- ・ 審査結果 秋艸道人賞に三条市の新飯田 茂雄さん
奨励賞 6 人は県内 4 人、奈良県 1 人、石川県 1 人
入選は 2 3 人（県内 1 2、奈良 3、埼玉 3、福島、愛知、兵庫、京都、島根各 1）
- ・ 記者発表 1 1 月 2 5 日（金）
新潟県政記者クラブ 浅井委員長、神林館長、武藤事務長
- ・ 授賞式、作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式
1 月 2 1 日（土） クロスパルにいがた映像ホール 参加人数 8 6 人

②奈良中宮寺姉妹歌碑除幕式

7 月 4 日（月） ・ 式典 参加人数 6 0 人 ・ 祝賀会 イタリア軒 参加人数 4 0 人

（鑑定会）

春の部 5 月 2 9 日（日） 総点数 8 点 認定数 5 点

秋の部 1 0 月 1 6 日（日） 総点数 1 1 点 認定数 1 1 点

（学校団体見学受入れ）

- ・ 4 月 2 8 日 新潟市立関屋中学校 1 3 人
- ・ 5 月 1 1 日 新潟市立潟東中学校 2 2 人
- ・ 5 月 1 3 日 東京学館新潟高校 4 4 人
- ・ 6 月 1 8 日 新潟医療福祉大学 2 2 4 人
- ・ 8 月 1 2 日 埼玉県本庄第一高校 2 0 人
- ・ 9 月 2 7 日 新潟市寄居中学校 1 0 人
- ・ 1 0 月 2 3 日 県立医療福祉大学 1 6 4 人
- ・ 1 1 月 8 日 新潟市立木戸中学校 4 人
- ・ 1 1 月 1 3 日 新潟高校書道部 3 1 人
- ・ 1 1 月 1 3、2 6 日 新潟大学書道科 4 6 人

合計 5 7 8 人

II. 施設の運営に関する業務

（1）平成 2 3 年度実績

観覧者数 7, 5 6 0 人（当初目標 7, 1 0 0 人）

観覧料収入 2, 6 7 0, 5 0 0 円（当初目標 2, 8 0 0, 0 0 0 円）

（2）再委託業務

内 容	業 者 名
防犯・非常通報・火災異常等の業務	上信越セコム
総合清掃業務	新潟ビルサービス
冷暖房切替、点検整備	木村計装

消防用設備点検	新潟ニッタン
貯水槽の清掃・水質検査	新潟三協
庭の手入れ	新潟シルバー人材センター
エレベーター保守点検	三菱電機ビルテクノサービス
損害保険	三井住友海上火災保険（株）
建物定期検査	加賀田組
収蔵庫・展示室定期検査	中部資材
ホームページの運営	新潟日報事業社

（３）人材の育成

出前講座の講師に積極的に務めること、他団体の研修や事業に学芸員が参加し、他館の学芸員や当館のサポーターと交流し、知識・人脈を活動に反映できるようにすることが目的。神林館長、喜嶋学芸員、湯浅学芸員はそれぞれ出前講師を務めるなど、普及活動事業を行うとともに、学芸員の解説力を高めた。

（４）新聞、放送、ホームページ等の活用

本年度も、学芸員が自らはブログに展覧会、イベント、記念館の周辺の季節の変化などを毎週 1 回紹介し、誘客活動を推進した。また、新潟日報文化面への執筆、新潟放送番組への出演など積極的に露出し普及活動を行った。

Ⅲ. その他

（１）自己評価

23年度は、奈良と新潟の絆が目に見える形で強化された年であった。前年度の全国巡回展「奈良の古寺と仏像 會津八一のうたのせて」によって、八一の業績は再び全国化しつつあり、その波及は中宮寺の歌碑建立（22年11月29日）、中宮寺姉妹歌碑建立（23年7月4日）、そして新潟市・奈良県歴史文化交流協定の締結（24年2月17日）に結実した。

流れは新年度へ引き継がれ、斑鳩町が町制65周年記念の八一歌碑建立を進めている。奈良を拠点にして愛知・春日井市展（24年4月27日～6月10日）、京都展（24年10月6日～12月2日）へと展開する流れである。

このほか、国際交流基金の新年カードに八一の歌が採用されるなどし、八一の業績普及に寄与するところである。

当館の入館者数は、7,560人（前年度比7%増）と、不景気と東日本大震災が響いたにもかかわらず、当初目標7,100人を超え、入館者数においても八一の業績普及を図ることができたと思う。

（２）寄贈、寄託

収蔵品の充実を図るため、寄贈・寄託の申し入れには素早く対応してきた。

- 寄贈 會津八一書「黒光庵」「みとらしの」など 計9点
- 寄託 會津八一書き入れ陶器 計1点

(3) 広報活動

①新聞 (新潟日報)

記事63回、広告(展覧会)31回、(複製学規、書籍)35回

題字脇「秋艸道人」コラム 356回

(産経新聞)記事3回(魯山人展と写真コンテスト)

(讀賣新聞)記事12回(関西地区・「會津八一の歌巡り」中田紀子さん執筆)

②テレビ、ラジオ (BSN新潟放送)

テレビ=CM15秒 42本 ニュース1本

ラジオ=CM287本 生出演1回

③市報にいがた

展覧会、講演募集 10回

④ホームページ バナー広告